平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

第2 教育課程(博士課程)

1 授業の履修要領

(1) 修了要件

博士課程を修了するには、次の要件が必要である。

- ① 在学期間が4年間以上であること。ただし、優れた研究業績をあげた者については3年間以上の在学期間で足りるものとする。
- ② 所定の授業科目について30単位以上修得すること。 ただし、平成18年3月31日において現に在籍する者は、32単位以上修得すること。
- ③ 必要な研究指導を受け学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

(2) 履修科目と指導教員

- ① 学生は大学院を構成する科目群の中から1科目を主に履修する科目(主科目)として選択する。主科目は学生の希望と適性、入学試験の成績及び入学定員の充足状況などを加味して、入学時に決定される。主科目を担当する教員は主任指導教員となる。
- ② 大学院を構成する科目群は「臨床医学研究コース」と「医科学研究コース」のいずれか、もしくは両コースを設置している。「臨床医学研究コース」は主にすぐれた臨床研究者を養成し、「医科学研究コース」は医学研究者を養成する。
- ③ 主任指導教員は、学生論文の作成指導を行なうほか、履修科目及びその他の教育研究活動に ついて指導・アドバイスを行なう。副指導教員は、主任指導教員とともに、教育研究活動につ いての指導・アドバイスを行なう。

(3) 授業科目の履修方法

教育課程表に基づき、主科目と副科目及び共通教育科目について、必要な単位を修得する。

① 主科目

- ア 学位論文の作成をおこなう科目であり1科目を選択し、さらに主科目に「臨床医学研究コース」と「医科学研究コース」が併設されている場合は、1つのコースを選択する。
- ・イ 選択した主科目とコースを入学時の5月末日までに「主科目履修届」を用いて、学務課主 査(大学院)に報告する。

② 副科目

- ア 主科目における研究の遂行上、必要となる知識、技術を補完する科目をいう。
- イ 主科目とは異なる科目を2つ以上選択する。
- ウ 選択した副科目は5月末までに学務課主査(大学院)に「副科目履修届」を用いて報告する。

③ 地域医療

「地域医療」は研究を推進しながら、同時に、臨床医として地域の医療を理解し、専門技術の向上と幅広い知識を習得することを目的とする。大学院臨床教授等の指導のもとに地域医療機関において研修と研究を行なう。「臨床医学研究コース」では、「地域医療」が1年以上2年以下の必修科目となる。「医科学研究コース」では「地域医療」は選択科目となり、希望者は

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

研究に支障をきたさない範囲において 2 年以内の研修期間で「地域医療」を選択することができる。

④ 共通講義

研究に必要な基礎知識や方法論の修得、また、学内外における最先端の研究成果及び発展状況の教授研究を目的として、複数の教員によるセミナー形式の講義を実施する。

コース2 前期研修プログラム

講義概要

大学院医学研究科の概要および履修方法、研究の基本、大学内の利用できる施設の説明をおこなう。

コース 2 ----・医学研究入門セミナー

講義概要

研究を始め、進めていくにあたって必要とされる基礎的な知識を講義する。

・基礎医学セミナー

講義概要

医学研究に用いられる各種の実験方法について、その手技や用いる機器の扱い方を各分野のエキスパートが具体的にわかりやすく説明する。

・臨床医学セミナー

講義概要

臨床医として必要な知識を各分野のエキスパートがわかりやすく講義する。

・先端医学セミナー

講義概要

各研究室でおこなわれている研究をオムニバス形式で紹介し、研究手法を学ぶとともに 研究の最先端を知る。

コース3 ―――・医学研究セミナー

講義概要

学外の講師による最先端の医学研究を紹介する。

(4) 履修単位

修了要件に必要な修得単位は30単位以上とする。

単位数及び履修基準については、「2 授業科目一覧」に掲載する。

参考資料:博士課程履修基準(抜粋)

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

2 授業科目一覧

【博士課程】

專攻 領域		授業科目	臨床医学研究	医科学研究	単位数		
7-7	194.7%	224111	コース	コース	主科目	副科目	
		臨床疫学講義	0	0	4	1_	
		臨床疫学演習	0	0	8	1	
		環境保健予防医学講義		0	4	1	
	##### *	環境保健予防医学演習		0	8	1	
	地域医療総合医学	地域保健予防医学講義		0	4	1	
		地域保健予防医学演習		0	8	1	
		健康行動科学講義		0	4	1	
	1	健康行動科学演習		0	8	1	
		リハビリテーション学講義	0	0	4	1	
		リハビリテーション学演習	0	0	8	1	
		法医学・アルコール医学講義	0	0	4	1	
		法医学・アルコール医学演習	0	0	8	1	
	1 BB AN A NO de MI	医療薬学講義		0	4	1	
	人間総合医療学	医療薬学演習		0	8	1	
		医療人間学講義		0	4	1	
地		医療人間学演習		0	8	1	
地域医		放射線防護学講義		0	4	1	
療		放射線防護学演習		0	8	1	
人間総		消化器分子制御医学講義	0	0	4	1	
総合医		消化器分子制御医学演習	0	0	8	1	
学		呼吸機能制御医学躋義	0	0	4	1	
		呼吸機能制御医学演習	0	0	8	1	
		職器発生·再生医学講義		0	4	1	
	On the All the death designation rest the	職器発生·再生医学演習		0	8	1	
	発生分化・加齢制御医学	発達小児科学講義	0	0	4	1	
	¥	免達小児科学演習	0	0	8	1	
		循環腎機能病態学講義	0	0	4	1	
		循環腎機能病態学演習	0	0	8	1	
		加齡·代謝病態学講義	0	0	4	1	
		加齡·代謝病態学演習	0	0	8	1	
		感染防御·制御学講義		0	4	1	
		感染防御·制御学演習		0	8	1	
	At the senant	分子免疫制御学講義		0	4	1	
	生体防御学	分子免疫制御学演習		0	8	1	
		生体危機管理学講義	0	0	4	1	
		生体危機管理学演習	0	0	8	1	

平成20年度 シラバス(大学院医学研究科)より抜粋

専攻	領域	授業科目	臨床医学研究	医科学研究	単位数		
専攻		12×11 0	コース	コース	主科目	副科目	
		がん薬物療法学講義	0		4	1	
		がん薬物療法学演習	0		8	1	
-		応用腫瘍制御学講義	0	5	4	1	
		応用腫瘍制御学演習	0)	8	1	
	臨床腫瘍医学	放射線腫瘍学·放射線医学物理学講義	0	0	4	1	
	临坏胜期区于	放射線腫瘍学·放射線医学物理学演習	0	0	8	1	
		緩和医療学講義	0		4	1	
		緩和医療学演習	0		8	1	
		外科腫瘍学·消化器外科治療学講義	0		4	1	
		外科腫瘍学·消化器外科治療学演習	0		8	1	
		ゲノム医科学講義		0	4	1	
		ゲノム医科学演習		0	8	1	
	海仁フ広州	分子医学·遺伝子治療学講義		0	4	1	
ı	遺伝子医学	分子医学·遺伝子治療学演習		0	. 8	1	
		分子細胞生物学講義		0	4	1	
		分子細胞生物学演習		0	8	1	
分子		腫瘍分子医科学講義		0	4	1	
	分子腫瘍医学	腫瘍分子医科学演習		0	8	1	
器官		腫瘍病理学講義	0	0	4	1	
御		腫瘍病理学演習	0	0	8	1	
官制御医学専		皮膚・腫瘍制御医学識義	0	0	4	1	
攻		皮膚·腫瘍制御医学演習	0	0	8	1	
-		腫瘍免疫学講義		0	4	-1	
		腫瘍免疫学演習		0	8	1	
		分子血液腫瘍講義	0	0	4	1	
		分子血液腫瘍演習	0	0	8	1	
		呼吸循環機能治療学講義	0	0	4	1	
		呼吸循環機能治療学演習	0	- 0	8	1	
		整形外科学講義	0	0	4	1	
		整形外科学演習	0	0	8	1	
		肾·尿路·生殖器治療学講義	0	0	4	1	
		肾·尿路·生殖器治療学演習	0	0	8	1	
		口腔機能治療学講義		0	4	1	
		口腔機能治療学演習			8	1	
		形態·体表機能再生学講義	0	0	4	1	
		形態·体表機能再生学演習	0	0	8	1	
	*	婦人生殖器·内分泌治療学演習	0	0	4	1	
		婦人生殖器-内分泌治療学講義	. 0	0	8	1	

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

専攻	領域	授業科目	臨床医学研究	医科学研究	単位数		
	NA.	1XXTT C	コース	コース	主科目	副科目	
		脳神経機能学講義		0	4	1	
- 1		脳神経機能学演習		0	8	1	
		脳神経機能薬理学講義		0	4	1	
		脳神経機能薬理学演習		0	8	1	
		神経·筋機能病態学講義	0	0	4	1	
		神経·筋機能病態学演習	0	0	8	1	
	14 60 E1 #4	精神機能病態学講義	0	0	4	1	
	神経科学	精神機能病態学演習	0	0	8	1	
		中枢神経機能治療学講義	0	0	4	1	
		中枢神経機能治療学演習	0	0	8	1	
		視覚機能制御医学讚義	0	0	4	1	
1		視覚機能制御医学演習	0	0	8	1	
		耳鼻咽喉·頭頚部外科学講義	0	0	4	1	
a l		耳鼻咽喉·頭頚部外科学演習	0	0	8	1	
2	,	細胞機能情報学講義		0	4	1	
塞り		細胞機能情報学演習		0	8	1	
問卸医学事		分子医化学講義		0	4	1	
2		分子医化学演習		0	8	1	
2		細胞生化学演習	1	0	4	1	
	生体機能制御学	細胞生化学講義		0	8	1	
- 1		分子解析学講義		0	4	1	
		分子解析学演習	3.73	0	8	1	
		臨床病態学講義	0	0	4	1	
1		臨床病態学演習	0	0	8	1	
1		分子病態生物学講義		0	4	1	
	•	分子病態生物学演習		0	8	1	
		生体情報形態学講義		0	4	1	
		生体情報形態学演習		ō	8	1	
	生体構造情報学	生体機能構造学講義		0	4	1	
		生体機能構造学演習		0	8	1	
		病態分子情報学講義		0	4	1	
		病態分子情報学演習		0	8	1	

科目		臨床医学研究コース	医科学研究コース
	地域医療	関連医療機関での研修(2年以下) 2-8単位	関連医療機関での研修(2年以下) 1-4単位
	前期研修プログラム	2単位	2単位
	医学研究入門セミナー ~	コース2 2単位	2単位
共通	基礎医学セミナー	2単位	2単位
講義	臨床医学セミナー	コース3 2単位	2単位
	先端医学セミナー	2単位	2単位
	医学研究セミナー	2単位	2単位

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

〇履修基準

科目	臨床医学研究コース	医科学研究コース
主科目(12単位)	12単位 (講義:4単位、演習:8単位)	12単位(講義:4単位、 演習:8単位)
副科目 (1科目につき2単位)	4単位 (講義:2単位、演習:2単位) ※ 2科目 選択	4単位 (講義:2単位、演習:2単位) ※ 2科目 選択
地域医療 (研修期間半年で2単位)	4単位 関連医療機関での研修(1年)	
地域医療 (研修期間半年で2単位)	2-4単位 関連医療機関での研修(1年以下)	
	6単位以上	10単位
コース2	前期研修プログラム(必修) 2単位	前期研修プログラム(必修) 2単位
	医学研究入門セミナー 2単位(5回受講)	医学研究入門セミナー 2単位(5回受講)
共通講義	基礎医学セミナー 2単位(5回受講)	基礎医学セミナー 2単位(5回受講)
※ただし前期研修 プログラムは必修	臨床医学セミナー 2単位(5回受講)	臨床医学セミナー 2単位(5回受講)
	先端医学セミナー 2単位(5回受講)	先端医学セミナー 2単位(5回受講)
コース3	医学研究セミナー 2単位(5回受講)	医学研究セミナー 2単位(5回受講)
副科目、地域医療、共通講義 から4単位を選択 ※選択していない科目を履修 すること		副科目(講義・演習) 1科目2単位 地域医療 1-4単位 関連医療機関での研修(2年以下) 共通講義 2単位
修得単位	30単位以上	30単位以上
学位論文等	①学位申請論文: 1編 (査読のある医学専門誌に掲載または 掲載予定のもの) ②全国規模の学会発表1回	①学位申請論文:1編 (査読のある医学専門誌に掲載または掲載予定のもの)
	主科目(12単位) 副科目 (1科目につき2単位) 地域医療 (研修期間半年で2単位) 地域医療 (研修期間半年で2単位) 地域医療 (研修期間半年で2単位) コース2 共通講義 ※ただし前期研修 プログラムは必修 コース3 副科目、地域医療、共通講義 ※透射していない科目を履修すること 修得単位	主科目(12単位) 12単位 (講義:4単位、演習:8単位) 4単位 (講義:2単位、演習:2単位) ※ 2科目 選択 地域医療 (研修期間半年で2単位) 地域医療 (研修期間半年で2単位) 地域医療 (研修期間半年で2単位) 担連医療機関での研修(1年) 2-4単位 関連医療機関での研修(1年以下) 6単位以上 前期研修プログラム(必修) 2単位 医学研究入門セミナー 2単位(5回受講) 基礎医学セミナー 2単位(5回受講) ・ 生態医学セミナー 2単位(5回受講) ・ 生態医学セミナー 2単位(5回受講) 第次 大だし前期研修プログラムは必修 を学研究入門セミナー 2単位(5回受講) 第次 大道 大端医学セミナー 2単位(5回受講) 第次 大学で表示 2単位(5回受講) 第次 大道講義 から4単位を選択 ※選択していない科目を履修すること 修得単位 30単位以上 ①学位申請論文: 1編 「学位申請論文: 1編 「登値のある医学専門誌に掲載または掲載すたのもの)

参考資料:博士課程履修基準(抜粋)

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

3 大学院研修プログラム【必修】

[前期研修プログラム]

ユニット	前期研修プログラム			対象学年	1~2年次 開講	時期 4	~5月
G I O (一般目標)	優れた先端医学研究を行うため	、基本	的概念・方法書	命を身につける。	•		
LS(方略)	SBOs (到達目標)	種類	対象(人数)	場所	担当教員	媒体	時間
1	大学院医学研究科の概要や大 学内の諸施設配置を理解する。	講義	全 体		医学研究科長	スライド	60分
2	大学院履修案内、必要単位数、 学位申請手続等の説明	SGD	全 体		副研究科長	スライド	60分
3	特許取得を目標とする実験の 進め方を理解する。	講義	全体	1ース2	産学・地域連携センター所長	スライド	60分
4	ヒトを対象とする研究の倫 理上の配慮を十分理解し、必 要な手続きを述べる。	講義	全 体		倫理委員会委員長	スライド	60分
5	動物を実験材料とする研究の 意義を十分理解し、動物福祉を 念頭に置いた手続きを述べる。	講義見学	全 体		動物実験施設部長	スライド	60 <i>5</i> 3
6	放射線を使用する場合の安 全対策を述べる。	講 義 見 智	全 体		RI研究部門長	スライド	360 <i>分</i>
7	劇毒物を使用する場合の安 全対策を述べる。	講義見学	全 体		医学教育専任教員	プリント	60 <i>分</i>
8	マルチメディアを利用して、 文献など情報を収集し、研究 に活用する。	講義見習	全 体		総合情報センター所長	スライド パソコン	120分
9	統計学などを活用し、研究 結果を解析する。	講義	全 体		統計学教員	スライド パソコン	60分
10	・口頭発表や論文発表の表現 方法を理解する。・実験基本手技及び汎用機器 の使用法を理解する。	講義実習	全体		教育研究機器センター長	スライド プリント テキスト	180分
11	研究計画の創案に加えて、 その進行状況を発表する。	SGD	専攻毎		医学研究科長 専攻長、副専攻長 指導教員 授業担当教員	スライド プリント 研究計画 調書	10分(1人)
12	これから研究を始める大学 院生を対象に、研究計画を立 案し、それを発展させ、公表 できるようになるための英語 による講義。	講義	全 体		Peter Olley	スライド 他	60分 × 4 回

[後期研修プログラム]

ユニット	後期研修プログラム		対象	学年	3~4	年次	開	講	時期	1	3年》	大後	切、 4	年次	通年
G I O (一般目標)	O 目的 課程を修了するに際し、研究課題に基づく成果を考察し、学位論文としてまと						Ł	た	げる	0					
LS(方略)	SBOs (到達目標)	種類	対象(人数)	場	所	1 13	担	当	教	員		媒	体	時	間
1	履修中得られた研究成果を 総括整理するとともに、発表 し討議する。	発 表	論文提出者	論文審	査室	医学	教」	1	o exacts			スラ	論文 イド ント	(60分 1 人)

参考資料:博士課程履修基準(抜粋)

平成20年度 シラバス (大学院医学研究科) より抜粋

4 共通講義

【博士課程】

科目	開講時期	担当教員	講義数	単 位 数	
前期研修プログラム(必修)	4月21日, 22日 (予定)	別途通知	50	2単位(5回受講)	
医学研究入門セミナー	別途通知	別途通知	50	2単位(5回受講)	
基礎医学セミナー	別途通知	別途通知	50	2単位(5回受講)	
臨床医学セミナー	別途通知	別途通知	50	2単位(5回受講)	
先端医学セミナー	別途通知	別途通知	50	2単位(5回受講)	
医学研究セミナー ← コース3	別途通知	別途通知	- 50	2単位(5回受講)	
The Golden Road to Research Success	9月~10月	Peter Olley MD		TOTAL	
Seminars in Medical English and Clinical-Problem Solving	10月~12月	Peter Olley MD	─ 医学研究研究セミナーに含む		

(1) 実施報告

コース4

コース 4:大学院生への知財遠隔教育

①取組のプロセス

地方の病院への派遣や当直、その他で多忙のため講義に出席できない大学院生にも聴講の機会を提供できるよう、場所や時間を選ばず学べる特徴を生かしたe-Learningシステムを設けました。内容は、コース 1~3 における講義を、講師の許可を得て録画し活用しました。このほか、ホームページに「知財 Q&A コーナー」を設けたり、「知的財産教育講義ガイダンス」を作成し、活用しました。「知的財産教育講義ガイダンス」は、講義をお願いした講師の先生方に、講義内容を基にして、押さえておくべき知財知識の課題について執筆していただいたものをまとめたもので、e-Learning 聴講の足掛かりとして、修士学生を対象としたコース 2 の講義などでも活用しました。

0 () 1	20/43/C 07C
コース 4	大学院生への知財遠隔教育
対象	地域医療に従事しながら研究を続ける大学院生
目標	対象者の興味やニーズに応じて, 医学研究者として最低限必要な知財知識から専門的・実践的・ 体系的な知財知識を供与するコース
内容	コース 1, コース 2, コース 3 で蓄積された教材(※コース 4・コース 5 は同一教材)
提供方法	e-Learning(「知財教育 e-Learning」)

②医学研究者向け知的財産教育講義ガイダンス

平成18年度から19年度に実施した知的財産教育コース講義の内容を基にして,下記に示す意図で, 医学研究者に必要な知的財産に関する知識の概要をまとめた冊子「医学研究者向け 知的財産教育講義 ガイダンス」を発行することとし,各講義の講師に対し,原稿執筆および課題設定を依頼しました。

一 本書の意図 一

- 1. 知的財産制度等について初心者である医学生や医学研究者に対して,入門的説明(押さえておくべき知財知識の手引き)を与えるものとする。
- 2. 日常の研究活動の様々な面にわたり、医学研究者が研究成果を最大限に活用できる(=企業との共同研究や技術移転)ように、意識付けする(きっかけを与える)ものとする。
- 3. 研究活動や特許出願等の戦略・方針の選択・決定にあたっての補助資料とする。

【利用方法】●本学における知財教育コースのガイダンス資料

- ●地域医療従事者が知的財産知識を学ぶ基礎資料
- ●医学研究者向け知的財産に関する意識啓発資料
- ●遠隔知的財産教育(知財教育 e-Learning)の内容紹介・導入資料

【配布先】 ●本学の学部生・大学院学生・教職員

- ●知的財産遠隔教育(知財教育 e-Learning)受講者
- ●その他希望者

【配布様式】●冊子

参考資料:大学院生 e-Learning 事後アンケート結果

平成20年8月より配信を開始した知財教育e-Learningの内容の充実を図る目的で、本学の医学研究科、保健医療学科に所属する大学院生(修士・博士)を調査対象としたアンケート調査を実施しました。(アンケート調査時期:平成21年1月)

●講座名

1. 病理学	1 人	7. 解剖学第1	5 人	13. 放射線科	6 人 19. 救急集中治療	療部 1人
2. 形成外科学	1 人	8. 看護学科	6 人	14. 外科学第1	2 人 20. 耳鼻咽喉科	5 人
3. 解剖学第2	2 人	9. 英語	1 人	15. 細胞生理学	1 人 21. 口腔外科	4 人
4. 内科学第2	1 人	10. 医化学	1 人	16. 公衆衛生学	5 人 22. 脳神経外科	4 人
5. 泌尿器科	6 人	11. 小児科	4 人	17. 神経精神科	6 人 23. 内科学第1	4 人
6. 麻酔科	2 人	12. 整形外科	9 人	18. 理学療法学科	10 人 ●不明	3 人
小計	13 人	小計	26 人	小計	30 人 小計	21 人
					合計	90 人

問1. 知財教育e-Learningの講義を受講しましたか。(受講回数をご記入下さい。)

①受講した 23 人

(受講回数 1回 12人 2回 6人 3回 3人 4回 2人)

②まだ受講していない 67 人

問2. 問1で①と回答した方にお伺いします。知財教育e-Learningの受講は、あなたにとって、知財への関心をさらに高めるものとなりましたか。

①はい	11 人
②いいえ	4 人
③どちらともいえない	8 人

問3. 問1で①と回答した方にお伺いします。知財教育e-Learningの受講は、あなたの日常の研究や職務等に、役立つものとなりましたか。

①はい	8 人
②いいえ	4 人
③どちらともいえない	5 人
※無回答	6 人

問4. 今後、継続して知財教育e-Learningや知財に関する講義を、受講したいですか。

①はい	52 人
②いいえ	37 人
※無回答	1 д

問5:今後知的財産や特許に関する講義を受講する場合,聞いてみたいと思う内容を具体的にお聞かせください。

自由記載

- ・実際にどのような経過で共同研究が行われているか。
- ・ 具体的な、特許をとるための手続きの方法
- ・どのような知識が役に立つのかを具体的に教えてほしい。
- ・治験 (※左記と同様の記述が他8件)
- ・先行文献調査 (※左記と同様の記述が他 13 件)
- ・特許取得や共同研究などの実践例
- ・具体的に知財管理を援助してほしい。
- ・共同研究, 文献調査, 特許など (※左記と同様の記述が他3件)
- ・基礎的なこと
- 特許
- ・海外の情報
- ・国際特許についての講義。先端医療と特許について。(※左記と同様の記述が他3件)
- ・治験の進め方(時間,費用をかけない方法等)
- ・調査方法(なるべくもれのない)
- 国際特許, 治験
- 研究デザイン
- ・多施設共同研究のやり方
- 知的財産全般
- ・色々な分野の講義
- ・特許の重要性
- ・特許や治験に関してのことなどわからないことが多いので引き続き勉強したい。
- ・特許を申請するときの注意点
- ・企業と大学の共同研究。

問6:知財教育 e-Learning 全体を通してのご意見、ご感想をお聞かせください。

自由記載

- ・私自身は研究を続けるわけではないので、自身に役立つものとは言えない部分はありますが、前回のような講演は、研究者の関心・理解を深めるために有用と考えます。
- ・e-Learning 自体はおもしろいと思ってますが、知財教育には全く興味ありません。
- ・知財の講義は4回受講しました。全体像はつかめたと思います。
- ・私の研究には全く関係ないので聞きません。
- ・e-Learning のメリットとしていつでも受講できることがある。現時点では大学院講義の出席が義務づけられており、非常に時間のない中やりくりしてどうにか出席している。e-Learning の受講が大学院講義の出席として認められれば今後受講することもありうる。
- ・IDと Password の所でつまずいて時間なく、受講できませんでした。
- ・F.D. セミナーや e-Learning など、たくさんセミナーがありすぎてどれがどれだか分からない。一本化してほしい。
- ・受講したことがないので、どちらとも言えない。
- ・今、直接的に関係しているとは思えなかったので、その後受講していません。
- ・担当科目の性格上、知財、特許関連の問題が(今のところ)あまりないのが実情です。
- ・とても便利だと思っています。
- ・特許のことなど勉強する時間的余裕がない。診療に時間をとられ、実験時間の確保も難しい。余裕が あれば是非受講したい。
- 機会がありましたら参加します。
- あまり興味ありません。
- 何の為にやっているのかよくわからない。
- ・今後も継続的に内容の充実をお願いします。
- ・講義内容はとても知識として役立つものばかりでした。しかし、これ以上専門的な知識があっても、 自分の分野では活用できる部分が少ないと思う。大変勉強になった。
- ・存在を今まで認知していませんでした。受講するかどうかは、まず何を学べるか、どういった内容を 受講できるのかを知らないと考えられません。
- ・大変参考となる興味深い講義であったが、回数はもう少し少なくても良かったと思う。但し年度に1~2度は受講したい。
- ・今後、積極的に活用させて頂きたいと思います。
- ・知財自体が身近に感じられないままで、専門的な講義がなされても関連づけがなかなか難しい。
- ・今後必要となってくる分野なので、これから受講したいと思います。
- まだよく分かりません。
- ・アナウンスが不十分だと思います。
- ・e-Learning がどのようなものかがわからない。
- ・単位認定ができるように考えていただきたいです。
- ・今後 e-Learning を受講することにより、単位が認定されることになれば受講したいと思います。
- ・知財に関する知識はある程度必要であると感じるが,大学院生の身分ではこれ以上知財に関する知識 を得る必要性を感じない,というのが正直なところです。

(1) 実施報告

コース5

コース5:地域医療従事者への知財遠隔リカレント教育

①取組のプロセス

地域医療に携わりながら研究を行う医療従事者のために、e-Learning を活用した遠隔地教育を試みております。場所や時間を選ばず学べる特徴を生かし、広く遠隔地域へ知財講義を提供することで、医療現場全体の知財意識の底上げを期待しています。本事業では、この試みの効果や問題点を調査するため、モデル病院として留萌市立病院を選定し、モニター受講、事後アンケート等への協力依頼を行いました。

コース 5	知財遠隔リカレント教育
対象	地域医療に従事しながら研究を続ける医療関係者(医師,看護師,理学療法士,作業療法士など)
∥ 目標 │	対象者の興味やニーズに応じて,医学研究者として最低限必要な知財知識から専門的・実践的・体 系的な知財知識を供与するコース
内容	コース 1, コース 2, コース 3 で蓄積された教材(※コース 4・コース 5 は同一教材)
提供方法	e-Learning

②モデル病院の選定

コース 4 (大学院生対象) 及びコース (地域医療従事者対象) の配信内容は, 平成 17年度から 20年度までに実施した知的財産教育コース講義を録画したもので, e-Learning 配信の許可を得たコンテンツを配信しています。コース 5 (知財教育e-Learning) は,配信初年度となるため,知財教育e-Learningシステムのコンテンツ内容について,次年度以降の充実化を図



る目的で、モデル機関(モデル病院)として留萌市立病院を選定し、モニター受講、事後アンケート 等に協力依頼をいたしました。

<依頼モデル機関>

留萌市立病院 留萌市東雲町2丁目16番地 TEL(0164)49-1011

病院長 笹川 裕 氏

(選定理由) 留萌市立病院は、既に遠隔システムを利用した実践的な取組が行われ、e-Lear ning受講環境が整備されているほか、病院長の笹川 裕氏は、特許出願等も経験されており、知財意識が高いとともに、本学の知財教育の取組に理解が得られると判断したため。

<病院概要>

①職員数 : 固定医師 24名 / 看護師数 233名 (平成19年度現在)※看護師の内訳は、看護師128名・准看護師60名・嘱託パート45名

②診療科目数:18科

(内科,消化器科,循環器科,呼吸器科,神経科,小児科,外科整形外科,産婦人科,皮膚科,泌尿器科,耳鼻咽喉科,眼科,

脳神経外科, 麻酔科, 形成外科, 放射線科, 精神科)

③病床数:350床(一般病床),4床(感染証病床)

口依頼する内容

(1) 知財教育e-Learningの受講

知財教育e-Learningをモデル機関の医療職員に受講していただく。(配信開始時期は、平成20年8月。)

(2) 事後アンケートへの協力

知財教育e-Learning受講後に、モデル病院の職員に向けてアンケート調査を実施。

ロモデル機関への訪問スケジュール

(1) 事前訪問

◆日 程:平成20年7月23日(水)

◆時 間:13:30~

◆訪問先:留萌市立病院

◆訪問者: (本学) ・ 附属産学・地域連携センター副所長

知的財産教育実行組織チーフ 石埜 正穂

参加者: (本学) ・ 附属産学・地域連携センター主査 上田 晃弘

・ 附属産学・地域連携センターシニア・スタッフ

佐々木素子

◆応対者: · 留萌市立病院長 笹川 裕 氏

• 市立病院事務部長 鈴木 鉄男 氏

◆目 的:

- ①本事業の概要説明
- ②「知財教育e-Learning配信に関する覚書」締結
- ③留萌市立病院において受講いただける職員の人数の確認
- ④ユーザーID登録に必要な、受講いただける職員のメールアドレスの提供依頼
- ⑤事後訪問の確認
 - -事後訪問の目的(アンケート回収と意見聴取)
 - 一日程調整
- ⑥事後アンケートへの協力依頼
 - -事後アンケートの説明

(2) 事後訪問

◆日 程: 平成20年12月17日(水)

◆時 間:13:30~

◆訪問先: 留萌市立病院

◆訪問者: (本学) ・ 附属産学・地域連携センター副所長

知的財産教育実行組織チーフ 石埜 正穂

・ 附属総合情報センター副所長 明石 浩史

参加者: (本学) ・ 附属産学・地域連携センター主査 上田 晃弘

・ 附属産学・地域連携センターシニア・スタッフ 佐々木素子

◆応対者: · 留萌市立病院長 笹川 裕氏

◆目 的: ①e-Learning受講システムの技術的調整

②知財教育e-Learningに関する意見聴取

知財教育 e-Learning 配信に関する覚書

北海道公立大学法人札幌医科大学(以下「甲」という。)と、留萌市立病院(以下「乙」という。)は、甲の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定事業「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」における e-Learning(以下「知財教育 e-Learning」と呼ぶ。)を、乙で実施するに当たり、次のとおり覚書を締結する。

(目的)

第1条 本覚書は甲が配信する知財教育 e-Learning を乙において円滑に実施するため、甲乙相互の協力のもとに緊密な連携を推進することを目的とする。

(内容)

第2条 甲は乙に対し、インターネットを介して知財教育 e-Learning コンテンツならびに 必要な教材を無償で提供する。

- 2 乙は、甲より提供された知財教育 e-Learning コンテンツ、ならびに教材を乙の職員に配信、配布する。
- 3 甲は、知財教育 e-Learning 実施にあたって必要な技術的サポートを乙に対して行う。

(施設等の利用)

第3条 甲は知財教育 e-Learning 配信に必要な乙の設備を利用できる。

(資料、情報提供)

第4条 甲及び乙は、本覚書に基づく知財教育 e-Learning の実施に必要な既存資料および 情報を相手方に提供することができる。

2 乙は、知財教育 e-Learning 実施状況等について、甲の随時実施する調査に協力する。

(著作権の保護)

第5条 甲及び乙は、知財教育 e-Learning 実施に当たって、配信、配布するコンテンツ、 教材の著作権の保護に留意するものとする。

(覚書の解除)

第6条 甲及び乙は、相手方が本覚書の遂行を正当な理由なく怠りまたは協力しないとき、その他本協定に違背する事実があったときは、本協定を解除することができる。



(協議)

第7条 甲及び乙は、本覚書に定めのない事項については双方誠意をもって別途協議する ものとする。

(有効期限)

第8条 本覚書の有効期間は、覚書調印の日から平成21年3月31日までとする。 2 本覚書の失効については、双方いずれかが3か月前までに終了の意思表示を行い、双 方協議するものとする。

本覚書の締結を証して、本書2通を作成し甲乙各1通を保管する。

平成20年 9月 10 日

- (甲) 札幌市中央区南1条西17年日 北海道公立大学法人 札幌医科大学 理事長 今井 浩三
- (乙) 留萌市東雲町2丁目16番地 留萌市立病院 院長 笹川 裕



札幌医科大学

医学研究者 • 地域医療従事者支援型知財教育



トップページ

知的財産教育全体解説

知的財産教育内容

Q&A

知財教育e-Learning

推進組織及び 事務局組織について

お問合せ先

活動実績

関連リンク

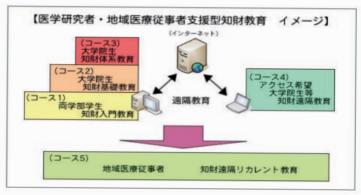
札幌医科大学 附属産学・ 地域連携センタ

文部科学省 国公私立大学を通じた 大学教育改革の支援



知財教育e-Learningのモデル機関への事前説明訪問を行いました。

平成20年度より「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」事業の一環として、e-Learningシステムを用いた遠隔教育を行う予定です。これまで、知的財産や研究成果活用事例の知識を有する研究者の育成を図るため、本学の大学院生を中心に、知財教育プログラム「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」を展開してきました(ユース1、ユース2、ユース3)。今年度は、地域医療に従事しながら研究を続ける大学院生(コース4)や社会人(コース5)「ご向けて、知財教育e-Learningの配信を行います。



配信内容は、平成17年度から今年度までに実施した知的財産教育コース講義を録画したもので、e-Learning配信の許可を得たコンテンツとしております。

今年度は、コース5(知財教育e-Learning)配信初年度となりますので、知財教育e-Learningシステムのコンテンツ内容について、次年度以降の充実化を図るため、モデル機関(モデル病院)を選定しております。

【留萌市立病院(モデル機関)について】

留萌市立病院は、既に遠隔システムを利用した実践的な取組が行われ、e-Learnin受講環境が整備されております。 また、病院長をはじめとして特許出願等も経験されている職員がおり、知財意識が高い機関です。

今後、本学では、本事業を通じて、地域医療 に従事している医学研究者に向け、よりよい知 財教育を提供できるよう努めます。



【「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」に関するお問い合せ】 札幌医科大学附属産学・地域連携センター 知的財産管理室(担当 上田、佐々木、澤田) 〒060-8556札幌市中央区南1条西17丁目 TEL:011-611-2111 (内線番号2107, 2108) E-mail: chizai@sapmed.ac.jp

トップページ>

Copyright(C)2006 Sapporo Medical University All rights reserved.

▲ ベージのトップへ戻る

参考資料:(社会人) e-Learning 事後アンケート結果

平成20年8月より配信を開始した知財教育e-Learningの内容検討や受講者の意識を図る目的で、 モデル機関である留萌市立病院に所属する医療従事者を調査対象としたアンケート調査を実施しまし た。(アンケート調査時期:平成21年1月)

問1. ご職業についてお伺いします。

①医師	6 人 ②看護師	2 人 ③理学療法士	0 人 ④作業療法士	0人)
⑤その他	4 人 (うち、事務員	3 人)		
			合計	12 人

問2. 知財教育e-Learningの講義を受講しましたか。(受講回数をご記入下さい。)

①受講した		5 人				
(受講回数:	1回	3 人	2回 1 人	3回 1人	4回	0人)
②まだ母謙」	アレンナミレン	7 J				

問3. 問2で①と回答した方にお伺いします。知財教育e-Learningの受講は、あなたにとっ て、知財への関心をさらに高めるものとなりましたか。

①はい	3 人
②いいえ	0 人
③どちらともいえない	2 人

問4. 問2で①と回答した方にお伺いします。知財教育e-Learningの受講は、あなたの日 常の研究や職務等に、役立つものとなりましたか。

①はい	3 人
②いいえ	2 人
③どちらともいえない	0 1

問5. 今後、知財教育e-Learningや知財に関する講義を、受講したいですか。

①はい	8 人
②いいえ	4 人

問6. 問5で①と回答した方にお伺いします。今後、知的財産や特許に関する講義を受講 する場合、聞いてみたいと思う内容を具体的にお聞かせください。

- 治験について。
- ・東南アジア、特に中国人の特殊感覚について
- ・国際特許など。
- ・日常の業務と密接に関係する項目につき、日常の業務の延長として知財に関わる方針につき聞いてみたい。(実例を含めて)
- ・共同研究、研究アシスタントの扱いについて。

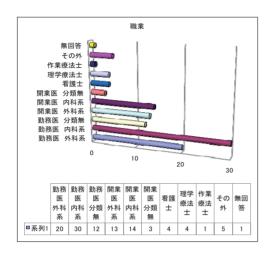
問7. 知財教育e-Learning全体を通してのご意見、ご感想をお聞かせください。

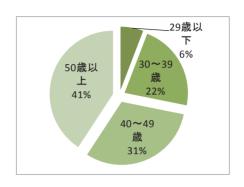
- ・難しかった。今のところ仕事に関するものがなく、実感が伴わなかった。
- ・全体像がよくつかめておりません。・時間がない。仕事が山積みのため、困難。

参考資料:(社会人)事前調査アンケート結果

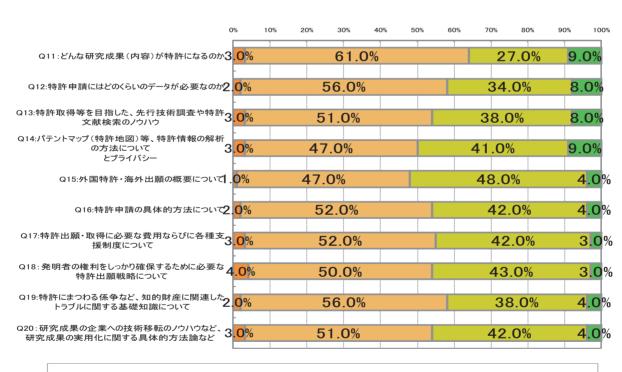
※コース5を開始するにあたり、事前調査として、医療従事者(社会人)の意識などを知るために、 ①研究に関する状況、②発明・特許出願等の経験、③知的財産に関する知りたい情報についてアンケート調査を行いました。遠隔地アンケートの対象者は、北海道内在住の医師、看護師、PT,OT(原則として昭和50年以降の本学卒業生としました。

<属性>





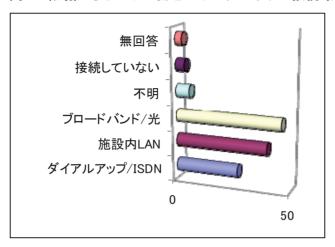
問1:知的財産(特許・発明など)に関する興味・関心について



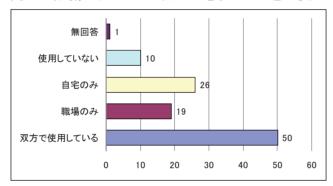
■有料でも知りたい ■無料なら知りたい ■興味なし ■既に知っている ■無回答

<e-Learning 実施に関する環境についての調査項目>

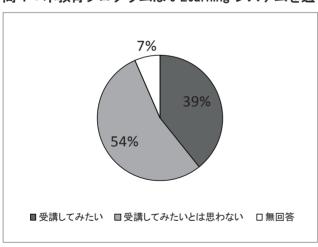
問2: 職場,もしくはご自宅のインターネット接続環境について伺います



問3:職場,もしくはご自宅で電子メールをご使用ですか

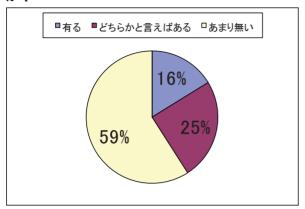


問4:本教育プログラムは e-Learning システムを通じて無料で各地域に配信される予定です。

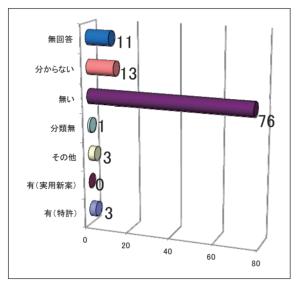


<発明・特許などの関心・意識の調査>

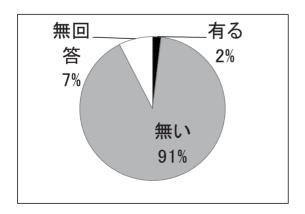
問5:特許などの知的財産に関心はありますか?



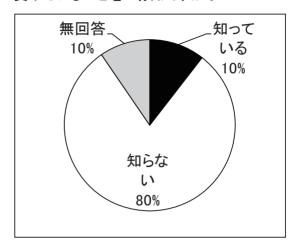
問6:これまで知的財産権に結びつきうる発明・工夫をしたことがありますか



問7:これまでに、特許や実用新案の関係で、 企業からクレームを受けるなど、トラブルに 巻き込まれたり、困った経験はありますか

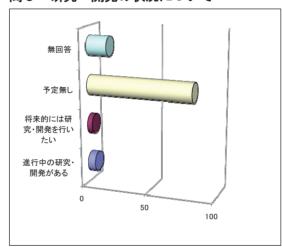


問8:札幌医科大学知的財産管理室で、相談を 受けていることをご存知ですか?

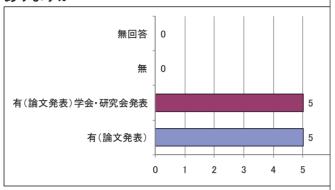


<研究・開発の状況について>

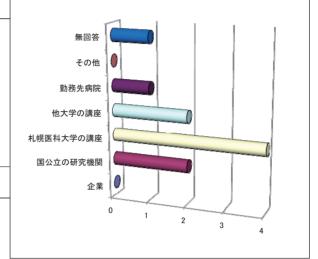
問9:研究・開発の状況について



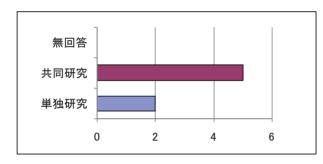
問10:その研究成果について発表する予定が ありますか



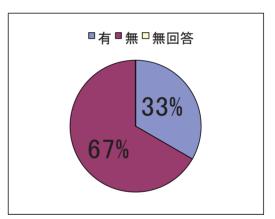
問12:共同研究の相手先はどこですか



問11:研究の形態はどのようなものですか



問13:研究・開発を行うに当たって出身講 座等から、人的・資金的支援がありますか



問14:特許などの知的財産に関心はありますか?

自由記載

- 自分には無縁と思われる。
- ・今まで考えたことがない。
- ・もともとどんな段取りをしていくのだろうと思っていて、中々実際に調べたりまでしていなかったのが、実情。工夫など常に考えているが、実際に特許などになると過去にもうあるのではと考え、調べる時間もなく、気にせずにしていたのが、現状。でもどこか気になってました。
- ・新しい診療上の工夫、改善を行っており、その実用新案届出に関心がある。
- ・医学的なイラストや本、パンフの挿絵を依頼されることがあり、ロイヤリティ収入を得たいと 考えている。
- ・以前、特許に関する研究をしたことがある。
- ・現在、研究をやっていて得られたによっては、特許がよいことも考えられる。
- ・知的財産に伴う対価があるのであれば、それを享受したい。
- ・今までその様な発明・発見などしたことなく、今後も恐らくないだろう。
- ・ちょっとした工夫でも伝えてゆくことは大切だ。しかもそれを財産として大学の「武器」にすべきと思います。
- ・特許などの知的財産になりうる診療料ではない。
- ・収入につながる可能性がある。自分が生きた証になる
- ・実際に新しいものをオリジナルで作成し、現場で使用することがある。
- ・関心はあるが内容について深く考えたことがないのできちんと回答できない。
- ・研究・開発に携わっていない。
- 自分にはあまり関係のないことだと思う。
- ・どのようなものが特許になるか知りたいが、現時点でそのようなネタは手元にないと思われる。
- ・特許は科学技術を用いて、他に存在できないもので医療技術は排他的になりえないと考えている。
- ・論文に掲載される Original article と知的財産の明確な区別がつきません。興味はありますがあまりにも専門的すぎると、あるいは自分の専門とかけはなれすぎていると理解できなくなる (また時間的余裕がないためいろいろ調べることができない)。感心がだんだんうすれてしまうものと思われます。
- ・具体的に何かもっているわけではないが、今後知っておかなくてはいかないことだと思う。
- ・現在特許の申請を検討中です
- ・報道や周囲で最近話題となる。
- 知識がない。
- ・なじみがない。時間がない。
- ・私個人に関しては知的財産と無縁
- ・特許などは自分の中で現実的ではない。
- ・自分の仕事が特許を得る必要があると思わなかった。
- ・話題になっているし、いつ自分が侵害しないとは限らない。
- ・今のところ特許をとれるような研究をしていない。
- ・生活のため、人類のため。
- ・青色発光ダイオードの件で興味を持ちました。日本では発明に対する評価が低すぎると思う。
- ・今までの人生でかかわった事がない。
- ・特に医療における発明・工夫などにつき活動していない。

参考資料:(社会人)事前調査アンケート結果

自由記載

・特許などの知的財産について声高にいわれる世の中ですが、様々な研究成果を多くの研究者が 共有することで研究が進歩することもありうると思う。知的財産の保護だけでなく、開示する ことの重要性もあると思う。

問15:これまで知的財産権に結びつきうる発明・工夫をしたことがありますか?

自由記載

- そこまでのレベルの医療は行っていない。
- ・何も発明などしていない。あまり考えたことがない。
- 考えてもいなかった。
- ・知的財産を持ちたいと考えたこともない。
- ・学位の際に研究したのみで、その時以外は臨床の現場で働いている。
- ・その様な斬新な発想が出来ない。
- ・研究発表はしたがそれだけのこと。特別なことはしていない。

問16:その他知りたいことについてご記入下さい。

自由記載

- ・医療は特許にならないという従来の考え方, 法律解説, 判例など
- 知的財産そのものがわからない
- ・現案の概要を知ることが先である
- ・今のところは縁がない。
- ・国益のためにも、大学を中心に是非積極的に進めてほしい!

(2) その他

参考資料:知財教育 e-Learning に関する資料①

知財遠隔教育に関する質問

- ■Q1. 知財教育 e-Learning は, 誰でも受講できますか?
- ■Q2. 知財教育 e-Learning では、どのような内容の講義を受講できますか?
- ■Q3. 知財教育 e-Learning の操作方法は?
- ■Q4. 知財教育 e-Learning を受講する際の推奨環境は?
- ■Q5. e-Learning システムはどのようになっておりますか?
- ■Q1. 知財教育 e-Learning は、誰でも受講できますか?

知財教育 e-Learning は、地域医療に従事しながら研究を続けている医療関係者として、現在のところ、札幌医科大学の学生・教職員 等関係者、本学が選定したモデル機関への限定配信としております。今後、学外医療関係者についても配信を検討しておりますので、御興味のお持ちの方は、下記までお問い合わせください。

■Q2. 知財教育 e-Learning では、どのような内容の講義を受講できますか?

本学では、平成17年度に文部科学省の現代体教育ニーズ取組支援プログラムに選定され、平成18年度より知的財産教育コース講義を行っております。知財教育 e-Learning では、これまでに行った講義(外部講師については配信許諾を得たもの)を配信しております。

※知財教育 e-Learning の配信内容については、こちらをご参照ください。

■Q3. 知財教育 e-Learning の操作方法は?

知財教育 e-Learning の操作方法については、下記の「受講の手引き」をご参照ください。

■PDF 知財教育 e-Learning 受講の手引き

※うまく動作しない場合は、下記の事項を御確認ください。

- ① Microsoft update は、最新の状態ですか?⇒ダウンロードサイトへ
- ② Windows Vista をご使用の場合、求められるコンポーネントのアップグレードを行ってください。
- ■Q4. 知財教育 e-Learning を受講する際の推奨環境は?

<知財教育 e-Learning の受講における推奨環境について>

より安全で快適にご利用いただくために下記のブラウザ,あるいはプラグイン等が必要です。ご利用のソフトウェアのバージョンをご確認のうえ,ダウンロードしてください。

※下記の推奨環境以外では、正しく動作しない場合がございます。

●推奨 OS およびブラウザ

Windows をお使いの場合

※ Windows 2000 Professional, Windows XP(SP2 以上), Windows Vista Microsoft Internet Explorer 6.0 以上

Macintosh をお使いの場合

 $MacOS\ X$ では動作しますが保証いたしておりません。また、 $Intel\ Mac$ 、Classic には対応しておりません。

Windows Media Player 9 for Mac OSX および Internet Explorer 5 が必要です。